特集

「U.S.CPA日本受験スタート!」
～はばたけ!世界的に認知された会計のプロフェッショナル～

TAC U.S.CPA講座専任講師(FAR･REG担当)
U.S.CPA

内田 順子 先生

英語で会計、税法、商法等の専門知識を効率よく修得するならU.S.CPAです。

U.S.CPA(U.S. Certified Public Accountant:米国公認会計士)とは、米国各州が認定する公認会計士資格だ。米国の資格でありながら、日本をはじめ世界中のあらゆる人たちが就･転職、キャリアアップ等の目的でチャレンジしているのが特徴で、現在、全世界で36万人超が米国公認会計士協会に登録している。しかしこれまでは試験会場が米国内に限られていたため、魅力と必要性を感じながらも受験を躊躇する人が多かったのも事実。それがこの2011年8月以降、日本国内での試験が開始されることになり、注目度が高まっている。そこでTAC U.S.CPA講座専任講師の内田順子先生にU.S.CPAの魅力と資格取得後のキャリア形成、そしてスタートした日本受験と今後の試験傾向について伺った。

Profile
内田 順子(うちだ じゅんこ)

1975年生まれ。高校2年よりオーストラリアに留学し、オーストラリアの国立大学商学部会計学科を卒業。帰国後、旧青山監査法人に入所し監査実務を経験しつつ、2000年8月よりTACのBecker上級コースを受講。同年3科目合格。2001年、U.S.CPA合格。その後、税理士法人勤務と並行してTAC講師として教壇に立ち2009年よりTAC専任講師となる。

英語で会計実務を学ぶU.S.CPA

――U.S.CPA(米国公認会計士)資格についてご紹介いただけますか。

内田　U.S.CPAは英語で会計実務を担う会計のプロとして世界的に通用する資格です。英文財務諸表の読み方はもちろん、税法･ビジネス法･監査など、実務に活かせる幅広い専門知識を体系的に英語で学ぶことが出来ます。IFRS導入へと世界が動きつつある中で、2009年度のU.S.CPA受験者数は9万3000人にのぼりました。2012年にはIFRS(またはIFRSと同等の会計基準)を採用する国が150ヶ国を超える見通しです。日本でも世界でも、ビジネスキャリアの幅を広げることができる資格ですから、監査法人や会計事務所だけでなく、メーカー、商社、金融機関、コンサルティング会社といった一般企業でも活かせるスキルを身に付けることができます。

――U.S.CPAの試験制度についてお聞かせください。

内田　U.S.CPA試験はコンピュータ形式の試験で、FAR(財務会計)、BEC(企業経営環境･経営概念)、REG(諸法規)、AUD(監査および諸手続き)という4科目の科目合格制となっています。出題範囲は非常に広いのですが、実務を意識した基本的なレベルの問題が中心です。出題形式はMultiple Choice(4択問題)とSimulation(シミュレーション問題)の大きく2種類です。シミュレーション問題というのはケーススタディ的な要素が強い総合問題で、基本知識だけではなく応用力が問われてきます。

――勉強を始めるにあたってどの程度の英語力が必要ですか。

内田　もちろん英語力はあったほうが有利ですが、個人的には、英語が得意でなくても英語に必要性を感じている方であれば大丈夫だと思っています。U.S.CPA試験の問題は"日本語であれば"さらっと読んで理解できるレベルのものが多いので、最初は時間がかかってしまっても慣れてくればごく短時間で解答できるようになってくると思います。合格者の方の中には勉強開始時点での英語力がTOEIC400点台だったという方もいらっしゃいます。

――合格までの勉強時間の目安と試験の特徴について教えていただけますか。

内田　まず"広く、浅く、まんべんなく"出題されるのが特徴で、理解重視の試験です。勉強時間の目安は講義時間も含めトータル約1000時間、例えばTACの本科生コース(1年)で学習するとしたら、講義週2回×3時間＋自習1日平均2時間が目安ですね。また各科目75点以上で科目合格となり1科目ずつ受験･合格を積み上げていくことができるので、仕事や学業と両立しながらチャレンジしやすい試験です。

――日本の試験ではペーパー試験が主流ですよね。U.S.CPA試験がコンピュータ形式になって変わった事(注意点など)はありますか。

内田　7年ほど前になりますが、それまで年2回ペーパー試験で行われていたものが、コンピュータ形式に大きく変更されました。これによって受験生は米国内のコンピュータテストセンターで1年のうち3の倍数月以外の8ヶ月間であれば原則いつでもU.S.CPA試験を受けられるようになりました(2011年8月以降は日本国内でも受験可能。日本での試験実施月は米国内とは異なり2･5･8･11月の4ヶ月となるが、詳細は後述する)。

まず、コンピュータ形式のU.S.CPA試験では、データベースに蓄積された膨大な数の問題の中から受験者ごとに異なった問題が出題されるので、いわゆる「ヤマを張る」といった対策が難しくなりました。主要な論点は一通り"まんべんなく"出題されると考えて準備しておかなければなりません。

もう一つペーパー試験との大きな違いは、自分の都合で試験の申し込みや取り消し、変更ができるという事です。例えば1ヶ月後に試験の申し込みをしていても「ちょっと間に合わないから延期しよう」ということが可能です。そうなると「今月は間に合わないから来月にしよう」とズルズルと試験を先延ばしにしてしまいがちです。フレキシブルな試験だからこそ、スケジュール管理が重要だといえます。私は早めに試験日を決めて何がなんでもその日に受験する事が大事だとアドバイスさせていただくようにしています。

――日本の資格試験と違うのは、どのような点ですか。

内田　まず、日本の難関資格試験と違いU.S.CPA試験は競争試験ではないので、努力しただけ結果がついてくる試験といっても過言ではありません。細切れ時間でコツコツと勉強を続けていけば約1年でも十分全科目合格が狙えるのが魅力です。

試験の出題内容については、例えば、一昔前の日本の税理士試験等と違い税法の条文や模範解答等を丸暗記する必要がないことですね。"広く浅く"が基本です。より具体的に言えば、所得項目なら課税か非課税かの判別を中心におさえることが大切で、細部まで事細かく丸暗記する必要がないのです。税法にはつきものの「○○以上」「○○未満」といった数字の幅を表す言葉も覚える必要はありません。シミュレーション問題の1つとなりますが、「リサーチ問題」といって会計基準のコードや税法の条文番号等を検索する設問があります。非常に実務的だといえる問題です。実務では基準や条文を検索し参照しながら業務を行うことも多々ありますので、その検索スキルが問われているわけです。これは分かりやすい一例にすぎませんが、U.S.CPA試験はこのように実務にす

ぐにでも活かせる内容になっているのも特徴ですね。

――内田先生はどの科目を担当されているのですか?また、学習の意義なども教えてください。

内田　私が今TACで担当しているのは「FAR(財務会計)」と「REG(諸法規)」です。いずれも「AUD(監査)」に次いで一般的には苦手とする受験生が多い分野だと言えます。特に負担の大きい税法に関しては「アメリカの税法は日本での実務に活かせるとは思えないので興味が沸かない」と率直なご感想をいただくこともあります。

日本と米国で細かいルールは違っても税額計算の仕組みや税法の考え方の基本は同じなのでそれを体系的に学ぶことは重要だと思いませんか?米国のタックスプランニングがどの程度日本に適用可能かなど一歩掘り下げて考えてみると面白くなってくると思います。経理や財務で長年勤務してきた方ほど、新入社員に会計の次は税務だとおっしゃられますしね。

――U.S.CPA試験は毎年試験の傾向が変わるのでしょうか。

内田　ペーパー試験であれば全員同じ問題なので傾向の変化が顕著なのですが、U.S.CPA試験の場合、毎年コンピュータのデータベースに新しい問題が追加され、その膨大な数の問題の中からランダムにピックアップされた問題が出題されます。人によって出題内容に偏りがあることもあるようで、一般的にいわれる「傾向」というのは掴みにくい試験だと言えると思います。

――試験対策に使う過去問はないのですか。

内田　過去問は4択問題であれば毎年50問程度／科目が米国公認会計士協会により公表されています。公表された過去問と全く同じ問題は出題されないことになっていますが、類似したパターンの問題はもちろん出題されてきます。問題のパターンを分析し厳選した過去問および予想問題を収録したのがTACのROUTE99(本科生)が使用するTAC問題集です。世界的に知名度があるBeckerと連携して試験対策をしていますので、新しい問題への対策は万全です。

英語力+専門知識で仕事の幅を広げよう

――今、U.S.CPA講座の受講生はどのような方が多いのでしょう。

内田　以前は監査法人勤務の方をはじめ経理・財務など会計に関係のある職種に就かれている方が多かったのですが、今の傾向としては会計には直接関係ない仕事をしているという方のほうがむしろ多くなってきていますね。金融や大手事業会社の方が多いように感じます。

一般企業の経理・財務以外の職種においてもある程度会計の知識は必要ですが、それほど深く掘り下げた専門的な内容を勉強する必要もありませんし、そもそも資格自体は必須ではないと思います。それでも多くの方がこの資格の勉強をされるのは、例えば簿記1級の内容が経理の仕事ではない方にとっては必要ない部分まで入っているのに対して、U.S.CPAは会計・税務・ビジネス法などの多岐の分野を幅広く見ていくことにあると思います。効率的に必要最低限の知識を修得でき、英語力も身に付いて一石二鳥だということです。

――U.S.CPAを転職目的で取得される方はいますか。

内田　はい。国際的企業や外資系企業への転職を視野に入れU.S.CPAを目指される方もいらっしゃいます。例えば英語力だけとってみても、TOEIC®のスコアだけよりさらに専門的な語学力があると評価されますので、実際「転職にもプラスになったと思う」とおっしゃられていた方が、私が知る限りでもかなりの人数いますね。これまでの実務経験と「会計+英語」をうまく組み合わせ自分をアピールすることができれば、当然ながら転職の際にも有利に働くと思います。ただ就職・転職の際の「切札」となるかといえば、そうとは言えません。合格後すぐにU.S.CPAを切札として自分のやりたい仕事に転職できたというケースは残念ながら多くはないと感じています。U.S.CPAを取得して転職し、自分のやりたい仕事に少し近づいた。そして、少しずつキャリアアップしていって数年後に当初の目標を達成された方が多いように感じます。「“今”と“5年後”の自分のためにU.S.CPA(「会計+英語」)の勉強をしよう!」と強く申し上げておきたいですね。

――合格後に、海外で働きたいという方はいますか。

内田　はい。去年の合格者の方の中にも、アメリカの監査法人・一般企業に転職された方がいらっしゃいました。最近は、IFRS適用に伴いアジア諸国で英語と日本語を話せるU.S.CPAに対するニーズが増えたと聞いています。英語力があり海外で働きたいと考えるなら専門性が高いU.S.CPAはお勧めです。

また、社内キャリアアップを考え海外転勤希望の方がTOEIC®+U.S.CPAを取得されているケースも目立ちます。「TOEIC®のスコアだけではなかなか海外転勤は難しかった」とおっしゃられる方もいましたね。

U.S.CPA日本受験がスタート

――2011年8月から日本国内の東京・横浜・大阪でも、U.S.CPAの試験が受けられることになりました。受験手続なども含め試験を受けやすくなったのでしょうか。これまでとの違いをお話ください。

内田　これまでU.S.CPA試験は、米国内のテストセンターでのみ受験可能でした。そのため、受験生にとって日本から一番近く時差も殆どないグアム(渡航時間3時間、時差1時間)が人気のある受験地でした。

今回、東京・横浜・大阪というグアムよりさらに近い場所で受けることが可能になったわけです。受験手続の方法などはこれまでと変わりませんので、受験する場所の選択肢が増えたと理解していただければいいと思います。(※願書の送付先や問い合わせ先が日本国内になったわけではありません。)

――日本で受けられるようになったメリットはどのような点ですか。

内田　渡米の必要がなくなりますので、時差ボケの心配もありませんし、試験のために休暇をとる必要がなくなることが大きいですね。日本受験は2月・5月・8月・11月の4ヶ月間に限定されていますが、この期間であれば、土日を含み原則いつでも受験できます(但し、祝日を除く)。仕事が忙しく渡米して試験を受けるとなるとなかなか日程的に厳しかった方もチャレンジしやすくなるのではないでしょうか。また、自宅から受験に行けることで精神的にもストレスが少なくなるというメリットがあると思います。ただし、日本で受験をするには、一定数以上の会計・ビジネス単位の取得が必要となります。

ここで、U.S.CPA試験の受験資格について簡単にお話しさせていただきます。まず、受験資格が州ごとに異なります。どの州に出願しても試験の難易度や資格の価値は同じですが、例えばニューハンプシャー州は4大卒+会計12単位+ビジネス12単位、アラスカ州は4大卒+会計15単位といったように、会計・ビジネス科目の単位数等の要件が州ごとに異なっているのです。現状メイン州とニュージャージー州については、「4大卒」のみが受験資格になっています。

TACでは、できるだけ追加取得単位数が少ない州をお勧めの州としています。4大卒の方であれば、これまでメイン州に出願し、グアムでの受験を選択される方が大半でした。日本受験の導入で、多くの受験生がメイン州出願+日本受験というシナリオを描いていたと思います。ところが「4大卒」のみで受験資格を満たせるこのメイン州やニュージャージー州は、日本受験が認められなかったのです(日本受験は不可)。

日本受験ができる主な州は、現在、ニューハンプシャー州、アラスカ州、バーモント州、モンタナ州、ワシントン州、グアムなどです。これらの州は、一定数以上の会計・ビジネス単位を受験資格として要求しています。日本の大学では商学部・経済学部でも履修できる会計単位がそれ程多くなく、一般的にみて日本の大学卒の方が日本で受験ができる州に出願するには追加単位取得が必要となってしまいます。TACの本科生コース受講生は、TACが提携しているブラッドリー大学単位認定試験プログラムで不足している単位を取得することができますが、単位取得に際しては1科目3単位につき　2万2000円の単位認定試験料がかかってしまいます。さらにU.S.CPA試験を日本で受験する際には日本受験追加料金として1科目3万円弱が通常の本試験受験料に上乗せされます。日本受験で渡米費用がなくなったとはいえ、このように

日本受験には追加コストが生じてしまいます。

日本受験は非常に魅力的ですので、これ以上のコストが出ないように、全科目初回合格を狙っていきましょう。

――日本受験ができるようになった事で受験生は増えると思いますか。

内田　魅力と必要性を感じながらもわざわざアメリカまで試験を受けに行く事にためらっていた方々（例えば日本の会計士・税理士の方）が、日本受験実施を機にこぞって受験されるのではないかと思います。すでに2011年1月以降、TACのROUTE99（本科生）の受講者数は増えています（前年比）。

――日本受験スタートで勉強方法や受験スタイルも変わってきますね。

内田　そうですね。渡米する必要があったこれまでは渡米費用なども考え2科目ずつ、2回に分けて受験に行かれる方が多かったのですが、日本で受験できれば1科目ずつ受験する方が増えるのではないかと思います。全4科目どの科目から受験しても構いません。ただし、会計を初めて学習される方の場合には、勉強方法の注意点として、本科生の順序通りに学習を進めるようにしてください。科目間のつながり等を考慮した順序となっています。

――日本で受けられるようになると大学生の受験者は増えるでしょうか。

内田　大学在学中に受験する場合、出願できる州が限られておりまして、TACではバーモント州、モンタナ州、アラスカ州のうちいずれかをお勧めしています。通常、これらの州の受験資格を満たすためには追加単位取得が必要となってきます。単位を取得してからいずれかの州に出願という流れになりますので、大学生の場合には大学3年次、4年次にU.S.CPA試験を受験するプランが一般的です。就活と時期が重なってしまうのがネックですね。ただ、在学中合格者の方に聞くと「面接では必ずU.S.CPAのことを聞かれた」と口を揃えて言っていました。まだまだ在学中合格者は少ないですので、大学生の就活においては、たとえU.S.CPA勉強中で合格前の状態であっても十分アピールできると思います。TACパンフレットやホームページに掲載の合格体験記なども参考にして下さい。私としては大学生こそU.S.CPAの勉強をしていただきたいと思っています。

――受講生の層が広がったというお話ですが、社会人であればどのような方にU.S.CPAをお勧めしますか。

内田　英語力と専門的な知識を補強したいと考えている方です。社会人になって必要性を感じ専門的な知識を体系的に勉強したいと思った場合、まずMBAという選択肢を考えた方もいらっしゃると思います。チャレンジしてみたいけど、MBAは莫大な費用と期間がかかり、海外に留学するとなったら仕事も辞めなければなりません。内容的には浅めですが、英語で同じような専門知識をざっくり勉強できるU.S.CPAがお勧めです。

そういえば、税理士科目合格の受講生の方が「U.S.CPAは広く浅い分全体像を掴みやすい。逆に先にこちらを勉強して、そこから日本の会計士や税理士を深堀りすれば、何が自分のやりたい事なのか、何で勉強するのかわかりやすかったでしょうね。U.S.CPAはすごく良い勉強になります」とおっしゃられていましたね。

選択肢を広げてくれるU.S.CPA

――内田先生がU.S.CPAを目指した経緯とこれまでキャリアをお聞かせください。

内田　私は高校2年からオーストラリアに留学しました。現地の高校の教科に“簿記”があり算数っぽいからなんとかなるかもという軽い気持ちで履修した記憶があります。簿記に関していえば、日本語よりも英語で学んだほうが用語が分かりやすいと思います。この経験を基に、大学では商学部で会計専攻を選択しました（編集部注:日本の高校を卒業後オーストラリアの国立大学に再び留学）。大学卒業年度の夏、日本に一時帰国し外資系企業で経理のインターンシップをすることになりまして、そこで出会ったのが監査に来ていた日本の会計士の方です。当時の青山監査法人のスタッフの方だったのですが、英文会計ができるなら監査法人でも採用の望みはあるかもしれないと教えていただき、その直後に早速代表電話に電話したのを覚えています（笑）。

面接後、運よく青山監査法人に採用してもらえることになりました。青山監査法人では、監査サポーティングスタッフとして外資系企業等の監査の実務経験を積むことができました。なんとインターンの時に出会った会計士の方と偶然にも同じチームに配属されました。偶然って凄いですね。仕事にやっと慣れてきたころにU.S.CPA試験の勉強を始めたのですが、ちょうど結婚の時期も重なり、それからしばらくして退職することになりました。その後U.S.CPA試験に合格し税理士法人勤務などを経て、現在はTACの専任講師をしています。

――U.S.CPA試験合格までの流れはスムーズでしたか。

内田　私が受験した時代は一斉ペーパー試験で11月と5月の年2回のみ試験が実施されていました。私はTACのBecker上級コースで約3カ月間、ようやく本気になって勉強した結果、1回目（11月）の受験で4科目中3科目に合格することができました。この期間は布団に入りやっと眠れても“勉強している夢”をみるほど勉強しましたね。残りの1科目は半年後の5月に受験し2001年に合格することができました。

――試験はどちらで受けられましたか。

内田　私の時代は出願した州まで受験に行かなければならず、イリノイ州出願だったのでシカゴで受験しました。当時を思い出すと今回の日本受験は本当に羨ましいです（笑）。

――キャリアアップに際してU.S.CPAを取得して良かった点等をお聞かせ下さい。

内田　私と同じ女性に向けてお話ししたいと思います。私の場合30代前半ぐらいまでは時期的に上昇志向に乗る波がありまして、その時は転職してさらにステップアップしようと考えていました。その波に乗って実は何回か転職活動をしていたのですが、専業主婦をしていた期間がある私でも、大手銀行はじめ複数の企業から打診をいただくことができました。U.S.CPAという資格を持っていることが、やはり相当プラスに評価されていたのだと思います。

一番良かったと思えるのは、「働き方」の選択肢の幅が広がった事ですね。私は、女性として、社会人として、バランスのとれた人になりたいと思っています。仕事におけるバランス感覚はもちろん、仕事とプライベートの双方を充実させることを目標としています。女性には結婚、出産、育児など少なからず仕事とプライベートのバランスをとらなければならない時期が訪れると思います。U.S.CPAの取得によって第一線で働き続けるという選択肢もあれば、英語力と専門性を高めることで一定レベルの収入を確保したまま時間を限定して働くという選択肢もできるのです。私自身も、資格を取ったからこそ、現在もTACの講師としてここにいることができると思っています。

――最後に受験生にメッセージをお願いします。

内田　「自分が将来何をしたいか。目標があればやるしかない。そこに少しずつ近付くために勉強するんだ」と心に決めて合格まで突っ走ってください。直接仕事に結びつくところもあれば、そうでない所もある。でも絶対に無駄じゃない。それがU.S.CPA「会計＋英語」）なのです。

もし途中で勉強がつらくなってきたら自分が“5年後”に何をやっていたいか、曖昧でも良いので頭の中に思い描いてから勉強を始めてみてください。資格の先にあるものが見えれば、必ず合格できます。一緒に頑張りましょう!

U.S.CPA（米国公認会計士）試験概要

■合格率（2010年）■

FAR（財務会計）47.80%
BEC（企業経営環境・経理概念）47.29%
REG（諸法規）50.66%
AUD（監査および諸手続き）47.80%

■標準学習時間■

1～2年

■受験地■

全米各地のコンピュータ試験会場（プロメトリックテストセンター）。
2011年8月より東京・横浜・大阪でも受験可能（下記参照）。

■試験科目■

FAR（財務会計）4.0時間
BEC（企業経営環境・経理概念）3.0時間
REG（諸法規）3.0時間
AUD（監査および諸手続き）4.0時間

■受験日■

1年のうち下記Ⅰ～Ⅳの4つの期の中で、各期1回、年間最大4回まで受験が可能。
【Ⅰ期】1・2月　【Ⅱ期】4・5月　【Ⅲ期】7・8月　【Ⅳ期】10・11月
（日本受験は、2・5・8・11月）

■受験料■

4科目合計$784.5（日本受験の場合、科目ごとの追加料金あり）

■受験資格■

米国公認会計士試験は全米統一の試験だが、受験資格は州ごとに異なる。

耳より情報

単位取得応援キャンペーン!!

単位取得のメリット!
①単位取得で、日本受験ができる!!
②本試験の予行演習ができる!!
③License申請にも使用できる!!

対象　期間中ROUTE99［本科生］をお申込みの方

TACなら日本受験と同じ試験会場で単位認定試験が受験できます!!

第1弾 2011年8月3日（水）～2011年9月5日（月）
①ブラッドリー大学入学登録料 7,000円→0円!!
②単位認定試験受験料（2科目分） 44,000円→0円!!

第2弾 2011年9月6日（火）～2011年10月7日（金）
①ブラッドリー大学入学登録料 7,000円→0円!!
②単位認定試験受験料（1科目分） 22,000円→0円!!

◎資格の内容、講座の内容、コース選択、受験要件などご不明な点があればお気軽に。

TAC米国公認会計士講座

最新情報は専用のサイトで　http://www.cpa-tac.com/us/

フリーダイヤル 0120-773-385

【受付時間】火～金15:30～19:00まで（祝日等の一部の日程はお休みさせていただきます）

メール:uscpa@tac-school.co.jp